

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 赤崎 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約するということは、正答率が高い。 ・送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことは、正答率が全国と同程度である。
	よくできた問題	・【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する問題（2一）
	努力が必要な問題	・資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く問題（2四）
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみることは、正答率が全国と同程度である。 ・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述することは、正答率が高い。
	よくできた問題	・椅子4脚の重さが7kgであることを基に、4脚の重さの求め方と答えを書く問題（1(3)）
	努力が必要な問題	・テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く問題（2(4)）

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ○「自分には、よいところがあると思いますか」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合が全国と比べて高い。 ○「将来の夢や目標を持っていますか」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合が全国と比べてとても高い。 ○「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合が100%である。 ○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合が全国と比べて高い。 ○「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合が全国と比べてとても高い。 ○「家で計画を立てて勉強をしていますか」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合が全国と比べて低い。 ○「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合が全国と比べて低い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 考えをかく活動については一定の成果を上げることができたが、自分の考えを相手に伝えることに関しては課題がある。学級全体だけでなく、まずは近くの友達やグループで発表し合う機会を充実させていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学校通信や学級通信等で家庭学習の重要性を啓発するとともに、家庭学習の時間を「10分×学年」としてその時間につり合う課題を設定していくようにする。